



この一年間、見えにくさのある児童生徒が在籍する学校、学級、担当されている先生方のお役に立てればと情報等をお伝えしてきました。

来年度も先生方のお声を聞きながら、より役に立つ支援を行いたいと考えています。一年間、本当にありがとうございました。

## 環境や施設について

4月から新年度になり、児童生徒たちはそれぞれ進級・進学をします。それによって教室や動線が変わったりすることもあるでしょう。私たちにとっては何でもないことでも、児童生徒にとっては大きな変化に感じられる場合があります。新しい年度のスタートをスムーズなものにするために、今から見直しや確認、準備をしていきましょう。

### 1) 採光とまぶしさへの対応

天気の良い場合は、教室の照明を落として、自然光で教室の照度を確保することが多いと思います。しかし、眼疾患によるまぶしさがある児童生徒にとっては明るすぎることもあります。本人に確認しながら、ブラインドやカーテンで調光し、照明で教室内の照度を一定に保つように配慮することも大切です。また、黒板や電子黒板が反射して見えにくくなっていないかなどを確認しておくことも必要です。

### 2) コントラストの確保

壁と床、壁とドア、壁と照明スイッチなどについて、コントラストをつけるとわかりやすくなります。机上也木目や明るい色より、つやけしの灰色や黒っぽい色調の方が、見えにくさのある児童生徒によっては良い場合があります。そのような色のマットやシートを敷く方法もあります。



### 3) ホワイトボードや棚等の配置の工夫

ホワイトボードや電子黒板などが、光源や外窓を背にして置かれていないでしょうか。

背景が明るすぎると、見えにくさのある児童生徒ではなくても、見ようとするものが反対に暗くなって、非常に見えづらくなります。

また、通路の近くにロッカーや棚等が置かれていると、つまずいたり蹴飛ばしたりしてしまいがちです。日常的に歩行する動線上にはできるだけものを置かないか、事前に児童生徒へ伝えておくように留意することが大切です。



#### 4) 校舎内の環境整備

玄関や廊下、階段、体育館などには、段差があったり、暗かったりするなど、決して安全ではない場所がいくつか存在します。

そのため、本人とともに該当箇所を実際に歩き、施設・設備を確認しておくことが大切です。特に教室や玄関などが変わった場合、それまで通らなかったルートを通ることになり、初めて危険であることがわかる場合もあります。危険と思われる場所や歩きにくい場所等については、照明を付けて明るくしたり、区別しやすい色に塗り分けたりするなど適切な対策をとっておくと安心です。



#### 5) 有効な備品

##### ○ 斜面台付き机・書見台

見えにくさから、机に顔を近づけて読んだり書いたりすることが多くなると、姿勢も悪くなりますし、疲れやすくなります。また、眼疾患によっては、眼圧を高めてしまい、悪影響を及ぼすことも考えられます。

右図のような斜面台付きの机や書見台を利用することによって、体に負担がかからない姿勢で読み書きをすることができます。

また、ポータブルの斜面台は、持ち運んで移動教室でも使えます。自宅学習時にも有効です。



##### ○ タブレット型 PC (iPad など)

タブレット型 PC はカメラ、IC レコーダー、拡大読書器の部分的な代用、メモなど様々な用途に利用できます。固定用のスタンドやアームを使うと便利な場合があります。

##### ○ 大きな作業机

弱視の児童生徒の場合、拡大教科書は通常の教科書より大きいですし、視覚補助具等も使用しているのであれば、多くの道具を置くこととなります。大きな作業台があれば便利です。

# 当事者に聞く「在学中の支援」

盲学校には視覚障害を持つ先生が複数います。中には地域の小中学校で学んできた者もいるので、その経験から「見えにくい児童生徒が学ぶ際に感じること」を聞きました。

## 困っていたことや難しかったこと

- 《国語》 漢字、特に画数の多いものが見えづらかった。文章を読むのに時間がかかった。試験問題の文中にある傍線での指示が見えにくかった。
- 《算数・数学》 計算問題の記号・座標や定規の目盛などが判読しづらかった。
- 《理科》 実験が見えなかった。あまり近づきすぎてガスを吸って気分が悪くなったこともあった。
- 《社会》 地図帳や資料集の小さな文字や色の違いが見えづらかった。
- 《英語》 英文の読み上げに時間がかかった。
- 《技術・家庭》 設計図の字が見えづらかった。工具の取り扱いが難しかった。
- 《美術》 デッサンやスケッチの被写体が見えづらかった。
- 《音楽》 指揮や楽譜が見えづらかった。
- 《保健体育》 ソフトボールなどの球技が怖くてできなかった。  
運動会や体育祭は、場所が運動場で広いので、集合や競技場所の把握が困難だった。

## 効果的だった支援

- ・最前列への配席。(反面、楽しそうに席替えする友達がうらやましくもあったが…)
- ・弱視レンズの使用は、劇的な効果があった。(もっと早期に知っていたらと思う)

## あまり効果がなかった支援

- ・試験問題の拡大コピーは、適正な文字サイズにするために問題用紙が大きくなりすぎ、扱いが大変になって、かえって時間を要することとなった。

## こんな支援があったなら・・・

- ・板書するときは、声に出しながら書いてほしかった。
- ・試験問題は、拡大コピーをするのではなく、みんなと同じサイズの用紙にフォントのみを大きくして提示してほしかった。
- ・小学生の時は勇気がなく、拡大の希望を伝えられなかった。いつでも相談できる人や話せる雰囲気を中心掛けてほしい。
- ・小学校3年生くらいから、教科書の文字や板書が判読しづらくなった。中学校では、さらに文字が小さくなり、読む量も増えた。自分は、視覚補助具の存在すら知らなかったが、小学校の時に弱視レンズ等の視覚補助具が使える状態になっていれば、もっと学習についていけたと思う。
- ・現在行っている視覚支援が生徒にとって適切でないケースもあるので、教師側が一方向的に配慮や支援をするのではなく、どうすればより良い見え方になるのかを児童生徒に確認しながら一緒に考えていくことが大切だと思う。
- ・iPadなどのICTを利活用した視覚支援も有効ではあるが、基本は手軽で携帯にも便利な単眼鏡やルーペなどの視覚補助具だと思う。早い時期に使い方を学ぶ機会を与えてほしい。
- ・中・高校生になると思春期になり話しにくい時期でもある。しかし、そんな時期こそ生徒に向き合って話を聞いてほしい。
- ・障害があるからと守るばかりではなく、チャレンジをさせてほしい。いろいろな経験をさせてほしい。
- ・支援する側が支援を提供するのではなく、社会に出て自立した生活を送れるように、本人の自己解決能力を養う指導もしてほしい。
- ・視覚障害の早期対応はとても大切である。見え方が気になる児童生徒がいる場合は、盲学校の巡回相談などをぜひ利用してほしい。

## 来年度の研修について

来年度も弱視学級や見えにくさのある児童生徒に関わられている先生方を対象にした研修会を実施します。1回目は4月下旬実施予定です。4月の早い時期に連絡をさせていただく予定です。

また、その他に6月にも公開研修を予定しております。来年度への引継ぎとしてお知らせいただければと思います。